

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果をふまえた指導改善策

I 調査の概要

1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 上記のような取組みを通して、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

中学校第3学年・義務教育学校9年生の生徒

3. 調査の内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、理科）

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- ・生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

4. 調査日時

令和4年4月19日（火）

II 学力調査の結果【中学校・義務教育学校後期課程】

1. 教科に関する調査結果(平均正答率※)

	国語	数学	理科
全 国	69	51.4	49.3
広島県	69	50	49
府中市	68	49	48
府中明郷学園	72	51	48

※平均正答率とは、「生徒の正答数の平均」÷「設問数」の値を、%で表わしたものです。

2 調査問題の趣旨・内容

区分	調査問題の趣旨・内容例
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫する。 ○論理の展開などに注意して聞く。 ○自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す。 ○助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使う。 ○文脈に即して漢字を正しく書く。 ○自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く。 ○表現の技法について理解する。 ○事象や行為、心情を表す語句について理解する。 ○場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える。 ○場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する。 ○行書の特徴を理解する。 ○漢字の行書の読みやすい書き方について理解する。 ○漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解する。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ○自然数を素数の積で表すことができる。 ○簡単な連立二元一次方程式を解くことができる。 ○反例の意味を理解している。 ○一次関数の変化の割合の意味を理解している。 ○多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解している。 ○問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる。 ○目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる。 ○結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる。 ○データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。 ○箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる。 ○与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる。 ○事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。 ○証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している。 ○筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活や社会の中で物体が静電気を帯びる現象を問うことで、静電気に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる。 ○モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を制御した実験を計画できるかどうかをみる。 ○観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を考える学習場面において、観測地の標高を空間的に捉え、気圧の概念を空気の柱で説明できるか問うことで、気圧に関する知識及び技能を身に付けているかどうかをみる。

<p>○継続的に記録した空の様子を撮影した画像と百葉箱の観測データを天気図に関連付けて、天気の変化を分析して解釈できるかどうかをみる。</p> <p>○飛行機雲の残り方を科学的に探究する学習場面において、地上の観測データを用いて考察を行った他者の考えについて、多面的、総合的に検討して改善できるかどうかをみる。</p> <p>○化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことができるかどうかをみる。</p> <p>○水を電気分解して発生させた水素を燃料として使う仕組みを探究する学習場面において、粒子の保存性の視点から化学変化に関わる水の質量が変化しないことを、分析して解釈できるかどうかをみる。</p> <p>○化学変化に関する知識及び技能と「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能を関連付け、水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもとして必要なものを分析して解釈できるかどうかをみる。</p> <p>○節足動物の外部形態の観察結果と調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈できるかどうかをみる。</p> <p>○複数の脊椎動物の外部形態の考察を行う場面において、あしの骨格について共通性と多様性を見方を働かせながら比較し、共通点と相違点を分析して解釈できるかどうかをみる。</p>

3 調査結果にみられる特徴と課題及び今後の改善策

【国語】特徴と課題
◇「論理の展開などに注意して聞く」問題〔1 二〕（正答率：75.0% 全国平均：65.1%と比較して+9.9p）
◇「助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使う」問題〔2 一〕（正答率：88.9% 全国平均：82.3%と比較して+6.6p）
◆「文脈に即して漢字を正しく書く」問題〔2 二①〕（正答率：75.0% 全国平均：82.1%と比較して-7.1p）
◆「場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える」問題〔3 三〕（正答率：61.1% 全国平均：62.0%と比較して-0.9p）

◇…相当数の生徒ができている点 ◆…課題のある点

【国語】改善策
<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の一環としても、状況に応じた適切な言葉遣いを指導し、あらゆる場面で実際に使う場を仕組んでいくことで常用漢字の定着をはかる。 ・文脈に応じて、登場人物の心情の変化を正しく読み取ることに課題がある。意図的に読書活動を充実させ、さまざまな文章に触れさせることで語彙を増やすとともに文脈を読み取る方法を身に付けさせる。また、「ことば探究科」の学びとともに、日常生活における言動に注目させ、その意味やつながりを問いかけていくことで言語感覚を磨いていく。

【数学】特徴と課題

- ◇「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる」問題〔6(2)〕(正答率：61.1% 全国平均：48.7%と比較して+12.4p)
- ◇「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」問題〔7(1)〕(正答率：58.3% 全国平均：44.0%と比較して+14.3p)
- ◆「箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる」問題〔7(2)〕(正答率：25.0% 全国平均：44.1%と比較して-19.1p)
- ◆「一次関数の変化の割合の意味を理解している」問題〔4〕(正答率：30.6% 全国平均：37.9%と比較して-7.3p)

【数学】改善策

- ・四分位範囲や箱ひげ図の意味の理解が不十分である。また複数のデータの分布を比較することにも課題がある。数学用語や意味を丁寧に扱い、データを読み取ることも復習に取り入れながら授業を進めていく。練習問題に多く触れていないことも一因として考えられるので、数学用語及び意味の定着を図るための問題にも取り組ませる。
- ・変化の割合は、 y の増加量と x の増加量の2つに着目すること、 x の増加量1に対する y の増加量であることを理解させる。また、表からの読み取りも行い、特徴を自ら見いだせるように授業構成をしていく。定期試験・単元テスト等でも授業改善の効果測定を行う。

【理科】特徴と課題

- ◇「物体が静電気を帯びる現象を問うことで、静電気に関する知識及び技能を活用できる」問題〔1(1)〕(正答率：52.8% 全国平均：44.2%と比較して+8.6p)
- ◇「身近な事象を問うことで、状態変化に関する知識及び技能を活用できる」問題〔7(1)〕(正答率：44.4% 全国平均：35.9%と比較して+8.5p)
- ◆「地上の観測データを用いて考察を行った他者の考えについて、多面的、総合的に検討して改善できる」問題〔2(3)〕(正答率：11.1% 全国平均：28.5%と比較して-17.4p)
- ◆「物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明できる」問題〔5(1)〕(正答率：5.6% 全国平均：15.3%と比較して-9.7p)

【理科】改善策

- ・地学分野の理解が不十分である。実感を伴った理解を図るために、気象現象のデータや観測した空の写真などを提示し考察させる。
- ・ばねに加わる力とばねの伸びの関係を、実験を通して発見させ、その規則性を日常生活や社会と関連付ける。例えば、ばねばかりで物体の重さを測らせるなど、身近なところで法則が使われていることを実感させ、学ぶことの意義を感じさせる。

Ⅲ 学習状況調査の結果

1 学習状況調査（生徒質問紙）の結果にみられる傾向

肯定的な回答の割合が、全国平均値よりも高かった項目
(30) 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。(本校 63.9%、全国 40.7%) (32) 1、2年のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。(週3回以上本校 63.9%、全国 50.9%)
肯定的な回答の割合が全国平均値よりも低かった項目
(38) 1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。(本校 47.2%、全国 63.3%) (11) 難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか。(本校 55.6%、全国 67.1%)

2 生活習慣・学習環境などに関する改善のポイント

本学園では、様々な形で地域の方々の協力を得ながら、総合的な学習の時間を中心にキャリア教育の充実に取り組み、プレゼンテーション等の機会に自分の考えを発表する経験を積んできた。しかしながら、総合的な学習の時間で学んだことを、他の教科とのつながりでとらえることがまた十分できておらず、活かされていらない。そこで、各教科とのつながりをより具体的に意識させるとともに、地域・保護者に情報発信し、相手意識をもった発表の場を計画的に仕組んでいく。

また、学園・学級としての日々の取組みの過程を、個人・学級全体として振り返るとともに、地域・保護者に情報発信していきながらフィードバックしていくことで、新たな課題解決に向けて意欲的に行動しようとする姿勢を育てていきたい。